



みすゞさんの詩の中には、「空」が出てくる詩がいくつもあります。

「空の色」の詩の中には「なぜ」という言葉が何度も出てきますが、みすゞさんは自分自身に「なぜ」と問いかけているのだと思います。

みすゞさんにとって「空」は想像力を深めるものだったに違いありません。

私たちは普段、空を見上げると、今日は青空で気持ちいいなあ … 雨が降りそうだな…
すごい入道雲がでているな… いろいろな想いを描きます。

先日、実習生の巡回でいらした大学の先生が、数年前に本園にいらした時に、ひとり園庭で子どもたちの様子を見てみると、そこに男の子が寄ってきて「空を見てごらん。雲がきれいでしょ」と言ったそうです。ひとりでいた私が寂しそうに見えたのでしょうか。とても感動したのを覚えてます。…とお話してくださいました。素晴らしい話ですね。

夜のようちえんが終わってから、女の子のお母さんがお手紙をくださいました。

「青とオレンジの空の時に外であそんで、オレンジの空の時にカレーを食べて、真っ黒なお空の時にキャンプファイヤーしたよ」と普段では体験することのできない空の変化を感じながら、とても楽しい時間を過ごせたようです。貴重な体験をありがとうございました…とありました。

〇〇時という、時間の感覚でなく、空の変化を感じながら過ごしたことはなんと素晴らしいことでしょう。また、その感性の素晴らしさに気づいたお母さんも素晴らしいです。

子どもの言葉から成長を感じるものですね。

私たちおとなも、ゆっくり空を見上げて、自分の道を立ち止まりたいものです…



9月20日(金) 16時20分



17時51分頃



18時12分頃

